

区立鹿本幼稚園の閉園延期を求める陳情

陳情の理由

昨年9月に通知された「区立鹿本幼稚園は平成26年3月に閉園する」方針により、鹿本幼稚園の来年度からの新入園児募集は行われない予定です。

教育基本法第11条に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」とあるように、幼稚園選びは、子どもの一生にもかかわる大切なことです。

多くの家庭では、半年から1年という長い時間をかけて幼稚園選びをしています。

「9月」は、ほとんどの私立幼稚園では見学会や説明会がすでに終わっており、翌年4月に幼稚園入園を控えた子のいる家庭では入園させたい幼稚園がほぼ決まっている時期です。

区立幼稚園入園を希望する家庭では、私立幼稚園もあわせて検討した上で、9月までには入園を決定しています。そして、区立幼稚園が2年保育という性質上、周囲の子が翌年4月に私立幼稚園に入園するのを見送り、更に一年待ってようやく入園を迎えることになります。

鹿本幼稚園の閉園に関する説明会の中では、教育委員会事務局から現3歳児の保護者に、今年4月からの私立幼稚園入園を検討するよう提案されました。

しかし、鹿本幼稚園のある本一色やその周辺地区には徒歩で通園できる範囲に私立幼稚園はなく、代わりの幼稚園を11月2日の願書提出までの短期間で探すことはひどく困難なことでした。

また、私立幼稚園に通う家庭への入園金・保育料の補助があってもその総費用は区立幼稚園より多くなり、経済的事情により容易に私立幼稚園を選択できない家庭もあります。

鹿本幼稚園には、先に閉園した松江幼稚園や小岩第一幼稚園を希望していた子も通園しており、来年度以降入園を希望している子もいます。それは、先の2園の閉園通知にあたり教育委員会事務局から「区立は鹿本幼稚園に入園できる。」と説明を受けていたためです。

昨年9月での閉園通知は、上記のような状況を予測・認識した上で行われたものとは思えず、その閉園計画には、とくに来年度以降入園を希望していた子ども達とその保護者への配慮がまったく見られません。

親として兄弟姉妹を「同じ幼稚園に通せたい」というのは当然の願いであります。

鹿本幼稚園では、自然豊かな広い園庭に代表される環境の元、園・保護者・地域が連携して子どもひとりひとりを見守る中、また近隣の小中学校との活発な交流を通して、子ども達は毎日新しい発見をし、さまざまな経験をしています。鹿本幼稚園に上の子を通わせた保護者の多くが、その環境と教育により我が子が「生きる力」をつけ、その後の就学への基盤作りができたことを実感しています。そして、ぜひ下の子にも同じ教育・環境で過ごしてほしいと願っています。

しかし、今回の鹿本幼稚園の閉園方針により、その願いは叶いません。

そればかりか、現鹿本幼稚園在園児の2歳下までの弟妹が私立幼稚園に3年保育で通う場合、1～2年間兄弟で別の幼稚園に同時に通うことになるという深刻な問題も生じてしまいます。(資料 1・資料 2)。毎日の通園の負担や園行事の重複を考えると兄弟同時に別の幼稚園に通うのは不可能です。そのため、そのような家庭の下の子については、3年保育での入園をあきらめ、年中(2年)もしくは年長(1年)からの入園を決断するしかありません。

ところが、多くの私立幼稚園では、年中や年長からの園児を募集していません。このままでは来年以降、これらの子ども達が希望する幼稚園に入園できず、幼児期に必要な集団生活を経験することなく小学校へ入学することが危惧されます。

今現在、上記のようなさまざまな理由により今年4月に私立幼稚園に入園できなかった子ども達、また来年以降の行き場がない子ども達がいます。そして実際に、年子や2歳下の弟妹がいる家庭では、我が子がこのまま十分に幼児教育を受けることなく就学することになってしまうのではないかと、日々悩み苦しんでいます。

[illegible]

住 所	氏 名(役職など)

江戸川区教育委員会委員長 吉野弘保殿

資料1

2歳差までの子どもを持つ家庭に起こる問題 ― 平成25年度で閉園になる場合 ―

	平成23年度 H23.4～H24.3	平成24年度 H24.4～H25.3	平成25年度 H25.4～H26.3	平成26年度 H26.3～H27.3	平成27年度 H27.4～H28.3	平成28年度 H28.4～H29.3	平成29年度 H29.4～H30.3
H23年度の年齢	閉園方針発表	次年度募集停止	H26.3閉園	■H24年秋の募集停止（H26.3閉園）の問題点 閉園発表のあったH23年度に3歳もしくは2歳の弟・妹は、兄・姉と別々の幼稚園に通わせなくてはならない。これは現実的に困難となる家庭もあり、最悪の場合、弟・妹を幼稚園に通わせられないケースが発生する ■問題の解決策 案1) 理想的には、区立があるから下の子を産んだという家庭に配慮し、H23年度に0歳の子どもまでを区立に入れるように配慮したい。この場合、閉園はH30.3となる 案2:) 最低でも、“実質的に区立しか選択肢のなかったH23年度に3歳の児童”の兄弟姉妹が別々の幼稚園に行かずに済むように配慮すべき。この場合、閉園はH29.3となる			
6歳	区立年長		H26.3 閉園				
5歳	区立年少	区立年長					
4歳 区立に入れる最後の年次		区立年少	区立年長 年少がいない状態で過ごす				
3歳 区立には入れない年次	閉園発表後、超短期間で私立応募をしなくてはならない	私立年少	私立年中 (区立年少)	私立年長 (区立年長)		解決策案2	解決策案1
2歳		募集停止で入園なし	私立年少	私立年中 (区立年少)	私立年長 (区立年長)		
1歳	私立に入れたとしても、兄弟姉妹で別々の幼稚園に通わせなくてはならない			私立年少	私立年中 (区立年少)	私立年長 (区立年長)	
0歳					私立年少	私立年中 (区立年少)	私立年長 (区立年長)

<参考>平成23年幼稚園スケジュール(閉園通知から私立幼稚園入園受付まで約2ヶ月しかありません)

4月	6月	9/1	9/6	9月末	10/6	10/15	10/20	11/2	11/3
入園式	見私立幼稚園開始 で多選の会月園稚こ びび期が下で園の いを開始旬行見間 （行にまかわ学、 9う幼られ会私立 月家稚。説、が立 ま庭園こ明7各幼	中央本幼稚園内に 育成室開室に	(在園児保護者へ) 閉園通知 鹿本幼稚園	終了 幼稚園で入園説明会 ほとんの私立幼	閉園説明会 地域への	入園願書配布 私立幼稚園	いの本広 予園幼報 定児稚え を募園ど 集集二が をを五わ し年 な度鹿	度私立 入園幼稚園 受付開二 始四年	入園立 園受幼稚園 付付開二 始四年 度

資料 2

2歳差までの兄弟の幼稚園重複問題－具体例－

ケース1(兄:平成18年生まれ、妹:平成20生まれ)

閉園通知された時、兄は鹿本幼稚園の年少児。妹は1年半後に鹿本幼稚園に入園予定でしたができなくなりました。

妹は4月から3歳児で私立幼稚園に入園できる年齢ではありますが、兄が鹿本幼稚園の年長に進級するため(転園は考えられない)、同時に2つの幼稚園に通わせるしかなく、妹の私立幼稚園入園を断念しました。2年保育で入れる幼稚園を探すしかありません。

ケース2(兄:平成19年生まれ、弟:平成20年生まれ)

兄は今年4月から鹿本幼稚園に入園しました。昨年9月の閉園通知では2年保育で受け入れをする代わりの幼稚園は探せなかったためです。弟は来年鹿本幼稚園には入園できません。弟は今年から私立幼稚園に入園できる年齢ですが、兄を鹿本幼稚園に入園させたこともあり断念しています。来年からどうすればいいのかもわからない状態です。

兄弟とも同じ幼稚園に通うには、兄の転園も考える必要も出てきます。

ケース3(姉:平成19年生まれ、妹:平成21年生まれ)

姉は今年4月から鹿本幼稚園に入園しました。(理由はケース2と同じで、代わりの幼稚園を探せなかったため)。妹は2年後鹿本幼稚園には入園できません。

姉が鹿本幼稚園の年長に進級するため、ケース1同様、来年4月から私立幼稚園に入園させることもできません。2年保育で入れる幼稚園を探すしかありません。

ケース4(姉:平成20年生まれ、弟:平成22生まれ)

姉は4月から私立幼稚園に入園できますが、閉園通知を知ったのが10月だったため、代わりの私立幼稚園を探せませんでした。来年鹿本幼稚園入園を希望しています。

しかし、それが叶わず、また希望する私立幼稚園に入園できない場合、他の区立幼稚園に自転車で片道30分以上の距離を毎日通うしかありません。その場合、弟も同じ区立幼稚園に通うことになります。

ケース5(兄:平成18年生まれ、弟1:平成20年生まれ、弟2:平成22年生まれ)

閉園通知された時、兄は鹿本幼稚園の年少児。弟1は1年半後に鹿本幼稚園に入園予定でしたができなくなりました。

弟1は4月から3歳児で私立幼稚園に入園できる年齢ですがケース1同様、私立幼稚園入園を断念しています。仮に弟1が鹿本幼稚園に入園できても、弟2に同様の問題がおきます。

2年保育で入れる幼稚園を探すしかありません。

※私立幼稚園では3年保育を実施している性格上、3年かけて子どもを教育していく方針をとっており、1年もしくは2年保育での就園を望みません。そのため、私立幼稚園では1年保育や2年保育の園児募集は多くされていないのが現状です。